

高根城(久頭合城, 久頭郷城)(市指定史跡)(浜松市天竜区水窪町地頭方)(城山公園)

高根城（たかねじょう）は、静岡県浜松市天竜区水窪町地頭方にあった山城である。

立地

遠江・信濃国境に近く、両国を結ぶ秋葉街道を見下ろす久頭合の山頂、標高 420m に位置する。城近くで河内川が水窪川に合流し、これを自然の堀として利用した。

歴史

応永 21 年（1414 年）、後醍醐天皇の孫・尹良親王を守るため、地元豪族・奥山金吾正定則によって築かれ、水窪川対岸には親王のための仮宮が建てられた。

戦国時代には駿河今川氏に属したが、今川氏が衰退すると、武田信玄の遠江侵攻が始まり、永禄 12 年（1569 年）城主・奥山民部少輔貞益の時、姻戚関係にあった信州遠山氏に攻められ落城した。落城後、武田方により改修が行われ、1572 年の遠江侵攻においては武田軍の拠点となった。

長篠の戦い後、武田氏の遠江からの撤退により廃城となった。

その他

2001 年に本曲輪部分に井楼櫓、主殿、城門などが復元され、武田時代の山城の様子を見ることができる。遠州七不思議の一つに、池の平に 7 年に一度だけ出現する幻の池伝説がある。これは、高根城落城で殺された城主の妻の涙が湧き出たものと伝わる。

Wikipedia による

高根城は奥山定則によって築かれた城で、北遠江と南信濃を結ぶ秋葉街道を守備する境目の城です。奥山氏は今川氏に属していましたが、今川義元が「桶狭間の戦い」で討たれたのちは、遠江侵攻を目指す武田信玄の軍勢によって落城させられました。このときに城は改修されたそうですが、武田氏が没落すると廃城となりました。城址は 1993 年（平成 5 年）から発掘調査を行い、2001 年（平成 13 年）に主殿・城門・井楼櫓・柵条が復元されました。戦国時代の中世山城の雰囲気を感じることができます。また、浜松市水窪民俗資料館には高根城関連の資料が展示されています。

「攻城団」による

